

この本を読む子どもたちに

教育課程研究委員会 国 語 部 会

みなさんは戦争を知っていますか。マンガやアニメ、テレビなどから、戦争はカッコいいものだなあと思っているのではありませんか。

しかし現実はそのようなものではありません。人がたくさん殺されたり、生まれたばかりの赤ちゃんの命が奪うばわれたりするのです。

お父さんにおこづかいをもらいたいな、お母さんにあれを買ってもらいたいなと思っても、戦争はあなたたちの大切なお父さん、お母さんを一瞬いっしゆんのうちにこの地上から消し去ってしまうのです。

今でも、三十九年前に広島・長崎に落とされた原子爆弾ばくだんの影響えいぎょうによって死んでいく人たちがたくさんいるのです。六年生になると日本の歴史を勉強しますね。たくさんの人々が亡くなったということは図表などから分かると思います。しかし、図表に表れずに、戦争が終わってから苦しんでいる人が数限りなくあることに目を向けなければなりません。

みなさんのお父さん、お母さんには戦争の体験がないかも知れませんが、でも戦争後の物がな

く、ほしいものがあってもがまんしなければならなかった幼いころの経験はあると思います。一度聞いてごらん下さい。また、おじいさんやおばあさんなら、戦争中の話をくわしく聞かせてくれるにちがいありません。

この本には、戦争のころのことがくわしく書いてあります。実際に戦争に兵士として参加した人、空襲で逃げまどった人、幼いころ戦争で父を亡くした人、空襲の激しい名古屋から農村へ疎開をしていった人などの話がのせてあります。

今でも、世界の各地で戦争が行われ、みなさんと同じ子どもたちが住む家も父母も失い、食べ物もなくうえて死んでいっています。

この本を読んで、戦争の悲惨さ、むごたらしさを実感し、本当の平和な世の中にするよう心がけようではありませんか。